



本評議員会は、「定款第20条第2項に定める定時評議員会として、理事会の決議に基づき、鳩山由紀夫理事長が召集し開催する」との定めにより、鳩山由紀夫理事長が進行を務め開始された。

六月二十六日(土)十一時より、友愛サロンに於いて第四回定時評議員会が開催された。これは昨年度(二〇二〇年度)の事業報告及び計算書類(決算)を理事長が報告するもので、財団運営に於ける重要な位置を占めるものである。

金沢俊弘監事・海方 亨監事の監査報告も行われ、二〇二〇年度の事業報告・計算書類は、全会一致で承認された。また、任期満了による理事の選任及び新任理事の選任なども議題に挙げられており、互選により選ばれた谷藤悦史議長のもと、順調に会議は進み、予定通り十二時に終了した。



由紀夫理事長が以下の通り昨年度に実施した事業についての報告を行った。

1 報告事項
事業について、議長が担当理事、事務局長を指名し、各担当理事、事務局長が資料を基に報告を行った。

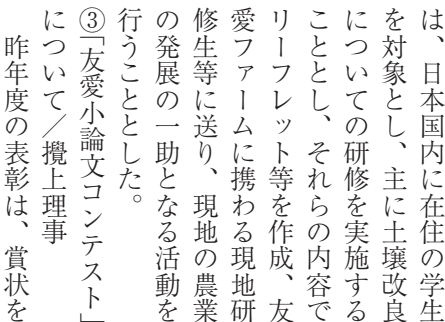
た。今年度の学生の募集は、夏休み以降に昨年同様の条件で始める。しかし、コロナのワクチン接種の状況、海外への行き来の許容状況など、全てを考慮した上で実施する。これと併せて昨年度の派遣員の派遣を実施する予定である。



②ミヤンマー農業研修生招聘事業について、井田理事現時点では招聘を含めミヤンマーとの往来が難しい状況にある。状況が安定するまでの間、および今年度は、日本国内に在住の学生を対象とし、主に土壌改良についての研修を実施することとし、それらの内容でリーフレット等を作成、友愛ファームに携わる現地研修生等に送り、現地の農業の発展の一助となる活動を行うこととした。

③「友愛小論文コンテスト」について、攬上理事は、昨年度の表彰は、賞状を

作成して郵送/大学が学生に授与。併せて作品集『私にとって友愛とは』送付。今年度は茂木理事の協力を得て「脳科学と友愛」などのビデオを制作し、これを活用し活動を展開する。これらの報告を受け、審議を議題に移し審議した。



第2号議案 二〇二〇年度公益財団法人友愛の事業報告(案)の承認について

第3号議案 定款の一部変更については、全会一致でこれを承認した。

第4号議案 任期満了に伴う理事の選任及び新任理事の選任



写真右より(前列のみ) 鳩山由紀夫理事長 海方 亨監事 金沢俊弘監事 谷藤悦史評議員 戸澤英典評議員 田中正基評議員 萩原直三評議員 福田八州雄評議員 酒井芳彦評議員 李慶達評議員 高橋佳大評議員 川手祥右評議員
昨年度は新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で、評議員が一堂に会する事が叶わなかった。多くの理事も出席し、久しぶりに迫力のある評議員会が開催された 谷藤議長のもと、全ての議題を順調に審議・決議し予定時間に無事終了した

友愛時評
▼東京二〇二〇オリパラの開幕を目前にして急遽「無観客」に変更される中、宮城県は男女サッカー一〇試合を有観客のまま行うという。仙台市長や地元の医療関係者など多くの反対を顧みず「復興五輪」という大命題がある」とほとんど忘れ去られていた意義を強調した村井知事の会見に、むしろ奇特なものを見るような思いすら抱いた。▼もともと二度目の東京オリンピック招致は「アメリカ国歌を何度も聞いて本当に悔しかった」石原慎太郎の「一九六四年のリベンジ」が発端となったそうだが、二〇〇九年一〇月にリオデジャネイロに敗れ、いったん挫折し、二〇一一年六月に再挑戦を決定した際に周囲の進言を取り入れ「復興五輪」を掲げるようになったのだという。多数の人々が避難生活を送り、福島原発事故の収束も見通せない中で石原都知事の東京への「復興五輪」招致表明に憤りすら覚えたが、案の定、建設資材や人件費の高騰によって復興事業にも多大な悪影響を及ぼした。▼招致決定後も数々のスキャンダルが続き、コロナ禍がなかったとしてもオリンピックの黒歴史の一頁となることは確実だっただろうが、現下の感染状況からすると人類史に残る愚行にすらなりかねない。ワクチン接種によりコロナ封じ込めがうつつすらと見えてきた中での強行開催だけに「せめて一年後なら本当にコロナに打ち勝った証となったかもしれないのに」という思いを禁じ得ない。▼ともかくも「オリンピック変異株」の出現や医療逼迫によって、国内外に多くの犠牲者を出す状況にならないことを祈るばかりである。(ヒゲ)



題字：鳩山威一郎
機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階
TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月1回 10日発行
会費(4月〜3月)
個人／3,000円以上
法人／10,000円以上

第十七回臨時理事会開催

鳩山由紀夫理事長を再選

理事十一名再任 新任理事二名選任さる

六月二十六日（土）十二時より、友愛サロンに於いて第十七回臨時理事会が開催された。

これは先に開催された第四回定時評議員会における、任期満了による理事の選任、及び新任理事の選任を受け、改めて理事長を選定するためのもので、第十六回定例理事会より持ち越しの案件であった「資産運用における基本方針」も併せて協議された。また、改めて事業担当理事を選定するなど、会議は順調に進められた。

午前中に開かれた第四回定時評議員会の終了を受けて、第十七回臨時理事会が開催された。

本理事会は、任期満了による理事の選任及び新任理事の選任に伴い、新たに理事長を選定することが第一義の議題として挙げられている。

理事長を選定するまで、互選により鳩山由紀夫理事長が議長を務めることとなり、理事十一名、監事二名の出席が告げられ、理事会の成立が宣言された後、早速協議に入った。

鳩山由紀夫理事長就任挨拶
再来年には設立七〇周年を迎える本財団の、これからこそが大切な時です。皆様方のご協力を得て、有意義な事業展開など、ますますの活動を行って行きたいと考えております。また、

新任 南楚幸信理事
鳩山友愛塾二期修了生でもあり、友愛との連携は充分。友愛国際写真コンクールを担当



新任 山口千恵子理事
女性理事の割合が低いなか、期待の女性理事誕生である。公益財団法人での経験豊かな頼もしい理事

新任理事プロフィール
南楚幸信（みなみの ゆきのぶ） 上写真中央
一般社団法人ジャパン・オーガニック・コンソーシアム代表理事・鳩山友愛塾二期修了生。有機野菜に関する日本に於ける第一人者。千葉県在住
山口千恵子（やまぐち ちえこ） 上写真下段
公益財団法人修養団青年部部长 著書『パヤタスに降る星』。永年フィリピンに於ける貧民救済活動に携わっている。東京都在住

ミャンマー農業支援・指導者育成事業
ミャンマー連邦共和国・日本

両国の未来を考える若者の集い 開催

在日ミャンマー連邦共和国の若者・友愛ユニオンのメンバーなど多数参加
二〇二一年度事業の柱「土壌改良・肥料作製」に協力の申し出多数

六月二〇日（日）十一時より友愛サロンに於いて「ミャンマー連邦共和国・日本 両国の未来を考える若者の集い」が開催された。これは公益財団法人友愛が、公益事業として実施している「ミャンマー農業支援・指導者育成事業」の一環として開催されたもので、在日ミャンマーの方々、友愛ユニオンのメンバー他、大勢の参加があった。

二〇一四年から続けられている農業研修生の受入は、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で二〇二〇年度は実施することが出来なかったことから、二〇二一年度事業として、日本にお住まいのミャンマーの方々に事業の実際を知っていただくことと、今後の事業実施についての協力をお願いする機会としての意味も込めて開催されたものである。

当日は、新型コロナウイルスの感染防止対策を充分に行い、細心の注意を払って開催された。幸い友愛サロンは、三方に解放出来る窓があり、充分な換気が行える。記念撮影の一瞬を除いて、全員マスク着用はもとより、様々な予防策が講じられた。

二〇一四年、アウンサンスーチー議長からの要請を受け、この事業はスタートした。ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業研修生を受入、日本の農業技術を学び、自国における農業の発展に資する指導者を育成することを目的として実施されてきた。現地では、友愛ファームと名付けられた試験農園も活動している。しかし、五年を経て実際の研修生の意見、友愛ファームでの作物の収穫状況からも、まず第一に必要なのは土壌改良であるとの思いを強くした。

鳩山由紀夫理事長
現状についてつぶさに語る一人一人の言葉に、メモを取りながら耳を傾け、丁寧に對話を重ねた

井田安信理事
これまでの事業を解りやすい資料として作成、解説。事業に掛ける思いの熱さが伝わってくる



鳩山由紀夫理事長を囲んで、全員で記念撮影（一瞬マスクを外して撮影しました）
在日ミャンマーの方々の中心的存在であり、当財団の事業に多大な協力を寄せてくださっているミャットーさん（写真前列左端）とミョウさん（写真前列・左から二人目）も一緒に。ミャンマーの青年たち友愛ユニオンの若者たち、若い力が一つになって両国の未来に、そして世界平和に活躍する日が来ることを予感させる、記念的一枚の写真となった
*友愛ホームページでその他の写真もご覧いただけます。是非アクセスを！

さんは、日本に於ける有機農法の第一人者で、この事業への協力を快く引き受けてくださった。

当日は、この事業担当の井田安信理事が、これまでの事業実施について詳しく解説（左の資料・ここには抜粋して掲載。詳しくはホームページをご覧ください）、南塾さんから有機農法の可能性など、レクチャ―が行われた。その後今回の翻訳などの協力を募ったところ、多くの方がそれに応えて協力を申し出てくださった。農業に関連している方のみならず、その他の仕事に就いている方も、農業を確立することの重要性を感じており、積極的に参

加を申し出てくださった。鳩山由紀夫理事長との意見交換では、クーデターによるミャンマーの現状を訴える声も聞かれた。

鳩山由紀夫理事長は、一土地の改良・有機農法について南塾幸信さんが詳しく解説。全員が一生懸命聞き入っていた。有機農産物は、今後需要拡大の期待が

一人の声に耳を傾け、「友愛として何が出来るか、どうすれば良いかを探っていきます」と答え、参加の方々からは喜びの声が上がった。

参加した友愛ユニオンのメンバーも「古い歴史の関係国でありながら、詳細を知ることが少ないので、貴重な機会だった」と感想を述べていた。また、ミャンマーに留学していたユニオンメンバーもいて、現状を仲間として憂いていた。

パスポートの事、実家への送金について等々、クーデターによる現状の生活困難さなど切実な訴えが数多く聞かれた。



特集

世界から若者の声

友愛ユニオンの活躍など、当財団でも若者の活躍は目覚ましい。これまでの事業活動の中で、連携した数多くの若者から友愛に寄せて思いを綴った文章を送っていただいた。また、現在世界に飛び出し活動している友愛ユニオンのメンバーからも、近況報告の文章を送っていただいた。友愛読者にご報告し、若者の活動にそして思いに拍手を贈っていただきたい。

第一番目は派遣・受入事業で協力しているオーストラリアOEJABから、二番目は中国から「友愛小論文コンテスト」で二〇二〇年度二位を受賞した張さんからのメールを、ご本人の了解を得て掲載した。三番目は、大学を卒業した友愛ユニオンのメンバー成田葵さんが、ケニアで暮らしていると聞き、近況報告をお願いした。本人が撮影した写真と共に紹介する。

オーストリアから

国際交流の大切さ

ニコラウス・ペトロンスキ

私はニコラウス・ペトロンスキと申します。現在ウィーン大学で「東アジアの経済及び社会」というテーマのマスターコースに所属すると同時にOEJABでは日本、特に公益財団法人友愛の関連業務を担当しております。

変化に気が付きました。ちょうどその時にOEJABでインターンとして働き始めました。二〇一九年に友愛から派遣された学生達のための訪問プログラムの準備にかかりました。そのインターシップは私にとって全く新しい経験であり、たえずミスを起こさないように緊張していました。しかし多くの親切なOEJABの同僚、または先輩のリーサー・フィシンのガーのお陰で何とか無事にこの職務を果たすことができました。

今回機関紙「友愛」のために何か書けないかというお話をいただき、大変光栄と思っております。国際交流及び国際分野での繋がりについて私なりの考えや感想を述べることで、嬉しく思っております。

東京にある明治大学での留学中、日本を始め、他のアジアの国やアメリカやヨーロッパの人々との出会いがあり、現在まで続く友情関係もたくさん結ぶことができました。

大学での勉強そしてOEJABとの仕事のお陰で様々な国の方々と出会える機会が多くあります。実は在学中に始めて、自分の国際交流に対しての深い関心に気が付きました。子供の頃からヨーロッパ内を旅し、高校卒業後大学で日本学を勉強し始めました。しかし、本当の意味での国際交流、つまり自分と違う文化を持っている友人

と意見交換を経験したのは日本での一年間の留学中でした。東京にある明治大学での留学中、日本を始め、他のアジアの国やアメリカやヨーロッパの人々との出会いがあり、現在まで続く友情関係もたくさん結ぶことができました。

一方で新しい考え方を知ること、そして他方で今まで慣れた環境から離れることにより、世界をまるで新しい光で見ることで、古い偏見をなくすことができました。それにより、他人が何を感じるか、何を考えるかもっと深く理解できるようになり、一般的に人に対して前向きになることができました。

特に帰国後、元の慣れた環境に戻ってから、自分の学生達とすぐに溶け込んで、訪問プログラムも大きな問題もなく無事に終わりました。手前味噌になってしまいかもしれませんが、学生の訪問は成功で終わったと感じておりました。



ニコラウス・ペトロンスキさん
写真右は、友愛派遣員が訪れた際、懸命にお世話をしてくださっている様子。座り込んでいるのが派遣員、立っているのがニコラウスさん



中国から 二位の賞状をいただいて

張若珩

突然のご連絡、大変失礼いたします。

北京語言大学の張若珩（チョウジヤクゲツ）と申します。

このたび、二〇二〇年度友愛小論文コンテストで二等賞を頂き、誠にうれしく光栄に存じます。まず、各審査委員および他のコンテスト関係者に心から感謝の意を表したいと存じます。

新型コロナウイルス感染症の大流行は「友愛」の力を再び感じる出来事だと思います。その一つは、貴財団のホームページで、鳩山由紀夫理事長が中国の状況が最も厳しかった時期に中国の国民に心よりのお見舞いを伝えているビデオ拝見しました。とても感動いたしました。

日本語を勉強しているうちに、中日両国の友好往来、その時間の長さ、規模の大きさと影響の深さは、世界文明発展の歴史に類を見ないものであることがわかりました。

友愛小論文コンテスト第二位の賞状を手に。張若珩さんご自宅で写した写真を送ってくださいました



このたびの小論文コンテストを良い機会にして、少しでも中日関係に役立ちたいと、ますます思うようになりました。

日本語学習者としての私は今後、この賞を励ましとして、友好の信念を固め、絶えず友情の種をまき、中日友好を大樹に育てることに貢献していきたいと思います。

最後に、貴財団の益々のご繁栄をお祈りいたします。

北京語言大学日本語学科
三年 張若珩

ちなみに、私は北京語言大学と帝京大学のダブル学位のプログラムの参加しましたので、帝京大学経済学部経営学科に編入されました。

しかし、日本への新規入国が停止し続いているため、いま家でオンライン授業を受けています。

日本への入国が許可されるとき、ぜひ日本の社会や文化を自分の目で見て、体験していきたいと思っています。

日本で勉強している間もずっと中日友好の事業に力を入れたいと思います。感染症の早い収束をお祈り申し上げます。

事務局の皆様もコロナに気をつけて健康にお過ごしください！

ーメールによる投稿ー

ケニア・ナイロビから

私の親友ローズマリー

成田 葵

「大学に受かったのはどうしてだと思う？」とケニア人の親友・ローズマリーに聞かれ「九〇％は自分の努力、一〇％は自分の運かな。」と私は答えると「私の場合は全く正反対。九〇％は神が導いてくれて、一〇％は努力。」と言いました。

当時ケニアに來たばかりの私は、彼女がなぜそう考えるのか全く理解できませんでした。最近少し分かってきた気がします。

………

こんにちは、オーストラリア派遣二期生（友愛ユニオン）の成田葵です。

私はこの三月に大学院を卒業し、八月から社会人として働く予定であり、この空いた期間を利用して現在はケニアの首都・ナイロビでインターンを行っています。

コロナのPCR検査を提供するラボで働いており、ウェブサイトを制作する等ウェブマーケティングの業



写真①

務をしています。

ナイロビに来て三カ月が経過しましたが、私の中で最も大きな収穫は「私と同じ世代の一般的なケニア人はどのような生活をしているのか」を垣間見られたことでした。

………

私が会社で仲良くなったローズマリー（写真1）は、PCR検査の検体を採集している二十五歳の女性です。給料は月六万円程度。これでも彼女は、ケニア人の中では給料をかなりもらっている方です。私はオフィスまで、毎回Uber（タクシー）で片道約二〇〇円かけて通勤していますが、ローズマリーはマタツと言う乗り合いバスに乗って片道約三〇円でオフィスに行きます。お昼は、私はカフェで約六〇〇円のランチを食べますが、ローズマリーはKibandaという屋台のような店で一〇〇円のランチを

食べます（写真2・3）。買い物は、私はスーパーに行きますが、ローズマリーは市場で安い物をします。家は、私はオフィスから車で十五分のところにある月三万八千円のアパートを借りています。が、ローズマリーは郊外の月一万二千円の家に住んでいます（写真4）。

………

ある日、ローズマリーは蒼白な顔をしてオフィスにやってきたので「どうしたの？」と聞くと「スマホを盗まれた」と言いました。またある日は、彼女の親友が突然解雇された、という話も聞きました。

彼女は、ケニアの一般的な水準から考えると豊かな暮らしをしているものの、突然解雇されたり、治安が良くないために盗難に遭ったりするリスクに晒されており、日本と比べ不確実性の高さを痛感

しました。

そんなローズマリーの楽しみは、ゴスペルを聞いて、毎週日曜日は教会に行くこと。土曜も働く彼女ですが、唯一の休みの日曜に毎回教会に行く彼女の信心深さには、驚かされるばかりです。

………

ナイロビはアフリカの中でもヨーロッパ人、インド



写真④



写真③



写真⑤



写真②

人、中国人の人口が多く、インターナショナルな都市です。日本とは変わらないうクオリティのショッピングモールも至るところにあり（写真5）、ショッピングモールでの物価は日本とあまり変わりません。しかし、ナイロビ郊外にはキベラスラムという大きなスラムもあり、お手伝いさんは月一〜二万円で雇うことができ、格差が混在している社会でもあります。同じナイロビという都市に暮らし、私とローズマリーは同じオフィスで仕事をしているものの、生活圏は異なっており、時々違う世界で暮しているような不思議な感覚に陥ります。

このような格差と彼女の遭遇する不確実性を体感する中で、冒頭の「大学合格に導いてくれたのは神が九割」という彼女の考え方は、合理的なのか、と思い始めました。不確実性があまりに多いと「神が全て決めている」と考える方が心が穏やかに過ごせるのではないかと、と思うからです。

ケニアには社会的な課題が多く存在します。しかし、それはあらゆるビジネスチャンスが眠っていると

も考えられ、実際に重要な課題を解決する会社も多くあります。例えば、調理用燃料を木炭からバイオエタノールに変えることに取り組み、実際にCO₂削減に大きく貢献している会社などです。そのようなビジネスに将来関わりたいと考える中で、月三〜七万の給料で暮らし、これからケニア社会を担っていく同世代の彼らの暮らし・価値観を僕かでも知り得た事は宝物のような経験であると痛感しています。

この原体験と自分のやりたい事を忘れず、今後社会人として邁進していきたいと思えます。

◆前回事務局近くのビル群の中に造られた「遊歩道」をご紹介しますが、この雑植の木々の正体判明しました。最近それぞれの木に、木製の三角柱の名札が付いたのです。三角柱の一面づつに、樹木の名前、開花時期が記されています。最後の一面の樹木に関する情報がちよつと不思議な雰囲気です。「近くの礫川（れきせん）公園・小石川植物園にも沢山あります」とか「剪定の時に良い香りがします」などとあり、（それってこの木の特徴ですか？）（剪定時には立ち会え無いでしょう）と突っ込みたくなる内容が多いのです。とまれ緑の中を、小さな三角柱相手に突っ込みながら歩くのは、結構楽しいです。（も）

